** 2017 年10 月（第 8 版）(新記載要領に基づく改訂)
* 2012 年 3 月（第 7 版）
承認番号:21600BZY00436000

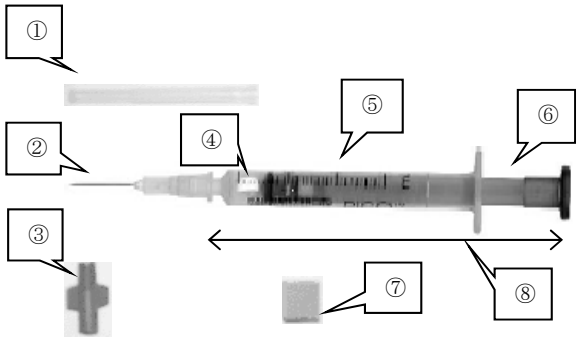
機械器具(56)採血又は輸血用器具
動脈採血キット 31336000
管理医療機器

動脈血サンプラー　PICO70

再使用禁止

【禁忌・禁止】
- 再使用禁止
- 人工透析装置や人工心肺装置等の陰圧回路内での穿刺による採血は行わないこと[回路内に空気を吸入するため]
- 注射には使用しないこと

【形状・構造及び原理等】
＜構成図（代表図）＞



	No	構成部品名
	①	針保護筒
	②	針管（G×mm）　:22×32、23×25、23×32
	③	キャップ
	④	ヘパリンディスク:電解質バランスヘパリン
	⑤	外筒
**	⑥	吸子（プランジャ）
	⑦	針プラグ
**	⑧	シリンジ

＜仕様＞
採血量 ： 0.3 mL～1.5mL
ヘパリン含有量:60 IU
エチレンオキサイドガス滅菌済み

1. 本品には針なしタイプと針付きタイプがある。
2. 針の材質:ステンレススチール

** ＜原理＞
吸子を引くことで、動脈血を所定量採血することできる。採血した動脈血は、予め封入したヘパリンと良く混和することで検体の凝固を防ぐことが出来る。

【使用目的又は効果】
本品は、血液ガス分析装置等の検査機器に使用する血液サンプルを橈骨動脈、大腿動脈や動脈ライン等から採血するために用いる器具である。

【使用方法等】
＜動脈穿刺による自動採血＞
1. 採血前に通常の方法で穿刺部位を確認し、吸子の先端を必要な採血量の目盛りに合わせ設定する。(Fig.1)
2. 使用前に針が正しく取り付けられていることを確認する。針保護筒はねじらずにまっすぐ引いて外す。(Fig.2)
3. 穿刺する動脈位置を決め、患者の採血部位が動かないように、しっかりと固定する。血液が動脈圧でシリンジ内に満たされ、あらかじめ決められてある量に達するまで待ち、吸子の先端にあるフィルター部分まで血液が満ち、自動採血が完了したことを確認する。(Fig.3)
4. 針を抜いた後は、穿刺部位を完全に止血する。(Fig.4)
5. 次のいずれかの方法で針を取り外す。(Fig.5)
   ① 針プラグを平坦な所に置いて針を刺し、鉗子など針をしっかり挟めるものを使用して針を取る。
   ② 施設で決められた方法で針を取る。
6. 取り外した針は、専用の廃棄物容器に捨てる。
7. 気泡が混入した場合は直ちに取り除き(シリンジ先端を血液が飛び散らないようガーゼで覆ったまま垂直に保って軽くたたき、吸子を押して気泡を追い出す)、キャップをシリンジ先端にねじ込む。(Fig.6)
8. ヘパリンディスクが十分に動くよう、本品を上下左右に(縦に横に)回転して、血液とヘパリンを混和する。(Fig.7)
9. シリンジ内の血液を数滴ガーゼに落としてから、直ちに分析装置内へ導入する。(Fig.8)

Fig.1

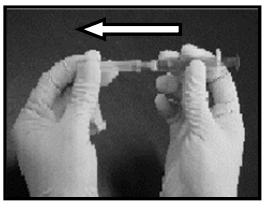
Fig.2


Fig.3

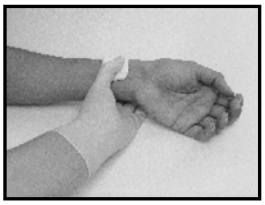
Fig.4


Fig.5

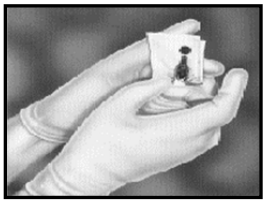
Fig.6


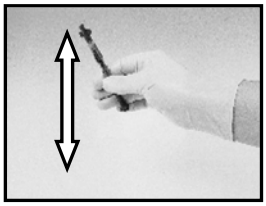
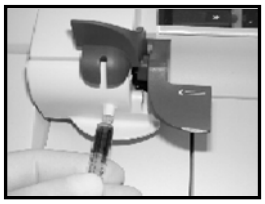
Fig.7


Fig.8


＊ ＜動脈ライン活栓からの自動採血＞
1. 動脈ラインがしっかり固定されており、ライン内にクロット(凝血、以下省略)がないことを確認する。(Fig.9)
2. ライン内の生理食塩水を完全に取り除いた後、本品を消毒された活栓に接続する。血液が動脈圧でシリンジ内(針なしタイプ)に流入し、予め決められてある量に達するまで待ち、吸子の先端にあるフィルター部分まで血液が満ちるのを確認する。(Fig.10)
3. 本品を活栓から取り外す。(Fig.11)

※ 以降の操作方法は上記＜動脈穿刺による自動採血＞と同様。

L1016-0108

Fig.9

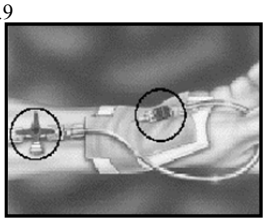


Fig.10

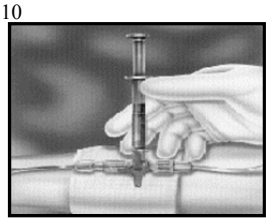
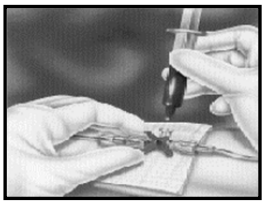


Fig.11



【使用上の注意】

** <重要な基本的注意>

- 使用前に針がシリンジにしっかりと固定されていることを確認すること。
- 採血及び検体を取り扱う際にはゴム手袋等を使用し、血液に直接触れないようにすること。
- 動脈ラインから採血する場合には、動脈採血用にデザインされている動脈ラインの活栓から採血すること。
- 動脈ライン内にクロットがあると、測定結果に影響がでるため、クロットが無いことを確認すること。
- 動脈ラインから採血する前に、必ず、ライン内の生理食塩水を完全に取り除くこと。不十分だと、検体が希釈され測定結果に影響がでる。
- 動脈ライン等との接続部からの漏れに注意して使用すること。
- 採血速度が速いと気泡の混入や溶血を起こすことがある。
- 採血後、針保護筒によるリキャップはしないこと。
- サンプルに気泡があるまま測定すると、結果に影響が出るため、採血時にシリンジ先端に気泡が混入した場合は、速やかに除去すること。
- 気泡を排出する際、決してシリンジを人に向けないこと。吸子を強く押し過ぎると、シリンジから血液が出てくる可能性がある。
- 一度採取した検体はヘパリン化されており、又、血管内に気泡が混入する可能性があるため、いかなる場合であっても患者へは戻さないこと。
- 採血後、十分にヘパリンと血液が混和されないと、検体が凝固することがある。
- 本品を血液ガス分析装置から外す時、血液が少し漏れることがある。

【保管方法及び有効期間等】

1. 貯蔵・保管方法

水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

2. 使用期限

外箱及び個包装に記載。〔自己認証（当社データ）による〕

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者
ラジオメーター株式会社
東京都品川区北品川 4-7-35
電話番号：03-4331-3500

製造元企業名
ラジオメーターメディカル社（RADIOMETER MEDICAL ApS）

製造元国名
デンマーク国